

「人道の港 敦賀ムゼウム」オープン！

3月29日（土）敦賀港の史実を紹介する「人道の港 敦賀ムゼウム（※注①）」の開館式典が敦賀港金ヶ崎緑地にて行われました。

「人道の港 敦賀ムゼウム」は、「敦賀港みなと観光交流促進協議会」（※注②）が港を核とした観光振興を図るため、社会実験の一環として開催した「人道の港 敦賀」をテーマにしたパネル展が好評で、常設展示が求められていたことから、今回金ヶ崎緑地休憩所（旧大和田別荘）に場所を移し、内容も充実させリニューアルオープンしたものです。

式典には敦賀市長のほか、ユダヤ人に日本通過のビザを発給した当時のリトアニア領事代理、故杉原千畝氏（※注③）の長男の妻美智さん、千畝氏の生誕地である岐阜県八百津町から赤塚町長、北陸地方整備局大脇港湾空港部長（局長代理）をはじめ地元有識者ら関係者約80人が出席しました。

式典の冒頭、河瀬一治敦賀市長より「敦賀港は古い文献にも記述が有り歴史がある。命の大切さ、重さをこのムゼウムから発信したい」と挨拶がありその後、杉原千畝の妻幸子さんのメッセージを杉原美智さんが「多くの方が訪れ、命の大切さが伝えられるよう願っています。」と代読しました。続いて、開館を記念したテープカットが行われ、敦賀市長、杉原美智さんらと共に、大脇港湾空港部長が参列しました。

その後、「敦賀港みなと観光交流促進協議会」の多仁会長の案内により「人道の港 敦賀ムゼウム」館内が披露されました。

この「人道の港 敦賀ムゼウム」のオープンを期に、事務所としても敦賀港から地域の魅力をより発信できるよう可能な限り支援していきたいと思えます。



テープカットの様子（1番左 大脇港湾空港部長）



館内披露の様子

（※注①）「ムゼウム」は、ポーランド語で「資料館」の意。

（※注②）国土交通省港湾局が推進する港を核とした観光振興を図る「みなと観光交流促進プロジェクト」の平成18年度モデル港に敦賀港が選ばれた事を受け発足した産学官による協議会。

（※注③）第二次大戦中、ナチスの迫害から逃れようとしたポーランド系ユダヤ人に、当時のリトアニア領事代理・杉原千畝氏（1900～1986年）は、人道的立場から日本通過ビザを発給しました。彼の行為により約6,000人ものユダヤ人が救われたと言われています。難民たちの多くは、杉原氏の発給した「命のビザ」を手に、シベリア鉄道経由でウラジオストクに向かい、日本海を渡って私たちの町、敦賀に上陸しました。